



1年学年だより

発行日：令和2年11月30日（月）

発行者：横浜市立南高等学校附属中学校

校長：三浦 昌彦 NO. 6

令和3年度生徒会役員選挙が行われました！

11月17日（火）に令和3年度生徒会本部役員を選出する立会演説会が、高校と合同でビデオ放送で行われました。候補者たちは『やろう！』の一言が言える、行動に移せる学校を実現したい」「言いにくい・言えないを、言いやすい・言いたい雰囲気づくり」「様々な学年、クラスの人と交流し、その中で互いに信じあえる関係を築いていきたい」など、思いを熱く語りました。同日に投票した結果、令和3年度生徒会本部役員が以下の通り決定しました。

生徒会長	■■■■	さん（2年4組）
役員	■■■■	さん（2年1組）、■■■■
	■■■■	さん（2年3組）
	■■■■	さん（1年1組）、■■■■
		さん（1年2組）



令和2年度 現生徒会本部役員のみなさん



令和3年度 新生徒会本部役員のみなさん

今年度、生徒会本部は「伝える伝わる広げる言の葉 ～あなたも生徒会員の一人～」という生徒会目標を掲げて活動しています。この1年、新型コロナウイルス感染予防のために、生徒会活動がかなり制限されています。そのなかでも3学年の互いのつながりが少しでも感じられるようにと、部活動紹介ビデオを作成したり、例年のSLM（スマイルランチミーティング）に代わる活動を企画したりしています。12月から3月までの4カ月、現役員と新役員の10人がともに活動することで、生徒会本部活動の引継ぎとパワーアップとを目指していきます。

本部役員は附属中生の代表として活動していきますが、附属中学校を作っていくのは全校生徒のみなさんです。南高校附属中学校は、来年度で開校10年目を迎えます。その時その時の附属中生が試行錯誤を繰り返して、今の附属中学校を作ってきました。附属中学校が開校した頃の先輩方が思い描いていた中学校生活を、今、みなさんが送っているのです。次は7・8・9期生のみなさんが節目となる10年目の附属中学校を作っていきます。「こんなことやってみたい」という一人ひとりの思いが、さまざまな生徒会活動（クラスの係活動や委員会活動や学校行事など）となり、それらが結集されて附属中学校の生活は充実していきます。一人ひとりの思いを、互いに聞き合い受けとめ合って、行動へつなげていきましょう。附属中生とともに、南高校附属中学校も日々新しく成長していきます。

親子で学ぶコミュニケーション研修

11月10日(火)と12日(木)には、EGG 体験としてミッキー先生こと戸村 充男先生を講師にお招きして、コミュニケーション研修を行いました。前回各学級で、テキストを用いて学習したことを復習しながら、「聴く力・質問の力・伝える力」を身につけて実践するための具体的なコミュニケーションの方法を学びました。

また、11月7日(土)には、毎年生徒たちに大好評のこのコミュニケーション研修を、保護者の皆様にもぜひ体験していただきたく「親力アップ！コミュニケーション・セミナー」を実施いたしました。当日は100名近くの保護者の方にご参加いただきました。ありがとうございます。「コミュニケーション」を話題として、また、お子さんと同じ内容の研修を受けて、ご家庭でも会話が弾んだことと思います。これからも、ご家庭と学校とが協力し、人間力の豊かな生徒を育てていきたいと思ひます。



1組: [] 気持ちの良い表情、そして気持ちの良い挨拶をすることが、相手と良い関係を築ききっかけになることがわかった。だから、初対面またはそこまで親密ではない人には気持ちの良い表情・挨拶を意識し、親密な人には、「聴く」を特に意識し、生活していきたいと思う。

1組: [] レッスンガイドの“キャッチボール”のところを見たとき、私は気づかずにやっちゃっていることもあるのかな、思った。これからは、態度や、口角を上げるなど、小さなことでも相手の気持ちを考えながら接したい。返答するときも、これを言われて嫌な気持ちになるかな、としっかり考えてから話す。相手と向き合うことが大切だとわかった。

2組: []
よく話す友達は聴くことが上手だから、自分が自然と話していて楽しいと思っているのだと思った。友達といっぱい話したいから、自分も聴き上手になりたい。

2組: []
気付かないうちに思い込みや先入観にとらわれていることが分かった。コミュニケーションで重要なのは話すことと思っていたけれど、聞くことはもっと重要だと分かった。

3組: []
「ヤダ」「無理」「できない」などのネガティブなことを言っていることが多く、そういう言葉は伝わっていくから、意識して言わないようにする。話を途中でさえぎらないなどのきくときの態度。

3組: []
会話の流れをボールのキャッチボールに例えていてわかりやすかった。テキストはカラーで分かりやすかった。図や絵などで分かりやすくて実践しやすかった。

4組: [] この学習では、実践することと、繰り返しテキストを見直すことが大事で効果的だと思う。なので、この研修前に一通りテキストとスキルテストを終わらせた。普段の生活の中では抜けてしまう内容もあり、人と面と向かって話すことがあまり多くなく、テキストだけでは実践に移しづらいところもあったので、今回の研修はとても良い機会だった。

4組: [] 自分の話を聞いてもらう時、顔をこっちに向けて相づちを打ってくれると話しやすいし、自分の話を聞いてくれていることが分かって嬉しいということに気づいた。これからは人の話を聞くときに相づちを打ったりして、しっかりとした態度で聞くことと、あいさつの時などに Mickey と心の中で思って笑顔をつくることを、意識して実践していきたい。



保護者の方の感想

○「きく」という言葉は字によって意味も大きく異なり、子どもに対しては「聴く」や「訊く」が必要であることは、なるほどと思いました。まずは子どもの話すことを遮らないことから始めようと思いました。

○色々と自分なりに気をつけていたはずですが、「ダメ」なことを思いの外たくさんやっていたことにあらためて反省させられました。座る位置は正面ではなく、斜め45度、さらには横並びが一番ということになるほどと思いました。

EGG 体験☆K-DEC 開発教育講座

11月7日(土)には、K-DEC(かながわ開発教育センター)より講師の方をお招きして、開発教育講座を行いました。各教室でVTRを見ながらカカオ生産に携わるガーナの子どもたちの生活を学んだり、カカオを生産しているにもかかわらずチョコレートを食べたことのない子どもたちに「チョコレートをあげるべきか否か」をグループで議論したり、「カカオ農園の子どもたちに(私たちが)できること」について考えたりしました。先進国と開発国との格差という深刻な問題について、真摯な話し合いが行われました。



1組: 自分と違う意見を知ることができ面白かった。ガーナの子どもたちにとって何が一番幸せなのかわからないからこそ生まれる違いだと思う。しかし、“一時の幸せ”を大切にするか、“その先の未来”に目を向けるかは人それぞれで、どちらもとても大切であると感じた。

2組: ビデオの最後のシーンでボールやチョコレートを渡して、ガーナの家族は笑っていたが、その顔もどこか悲しみや悔しさが表れている気がした。一緒にサッカーをしている時は心から楽しんでた。物を渡すときはどうしても対等な関係になれないが、一緒に活動すると、その人と一つになれる。そのような考え方で接していきたいと思った。

3組: 人との考え方の違いを感じた。チョコレートをあげるかどうかでは、自分は初めからあげない派だった。あげる派の人もいることも、その意見も予想していたが、クラスの話し合いの時に予想していなかった考えが出て驚いた。感謝を伝えることでその仕事に誇りが持てるという考えだ。その考えを聞いて、なるほどと思った。

4組: 小学生のころ「南北問題」について学習したが、まだ知らないことはたくさんあると感じた。フェアトレードチョコレートを見たり聞いたりしたことはあったが、いざチョコレートを食べようとするとき安いほうを選んでしまう。でも自分がした行動により、カカオ農園で働く人々が苦しむことになるのなら、今すぐにも行動を変えないといけないと思う。

霜月の福袋

コミュニケーション研修に、K-DEC 国際開発講座、JAXA 宇宙開発講座そして EGG ゼミの後期実践編。11月はEGGのプログラムが満載でした。初めて知ったこと、あらためて考えたこと、グループ活動計画で進んだこと、活動アイデアがボツになったことなど、色々な経験を重ねています。聴くことから学び、失敗から学ぶ。EGGの学びから、伸びやかに骨太な人間力を手に入れてほしいなあ。成功も失敗も全集中で!